

新しい人・新しい国・新しい世界

MRA 8

MRA 国際移動学校 9月から北海道へ 札幌を中心に4週間の予定で

レッツゴー北海道が7月5日札幌市の中島公園に新しく完成した屋外音楽堂で50分にわたって音楽ショーを公演しました。北海道新聞社が主催したこの新しい音楽堂のこけらおとしにはレッツゴー北海道のほかには大阪フィルハーモニーなども公演しました。

この日のためにMRA国際移動学校の生徒7人も小田原から応援に出かけましたが、彼らはその機会を利

用して札幌各界の人びとに会い、その結果9月10日すぎから約1ヵ月間にわたって移動学校が北海道を訪問することになりました。

北海道滞在中のスケジュールも相当具体化しましたが、そのスケジュールは大体次のようなものです。

- 9月12日 札幌大通り公園ステージで公演
- 13日 札幌西高校の学校祭で公演
- 14日 道新ホールで2回一般公演
- 15日～23日 病院、学校、養護施設、工場、自衛隊、デパート屋上などで公演
- 24日～10月3日 道内バス旅行
- 4・5日 札幌でMRA青年大会
- 10日 中島スポーツセンターかあるいは別の会場で一般公演
- 11日 札幌を出発、小田原に向かう

以上のようなスケジュールですが、その間毎日勉強もやり、あわせて北海道の青年に音楽ショーを通してアップ ウィズ ビービル（人間を高揚する）の精神をひろめるつもりでいます。

シングアウト夏期大会開く

シングアウト・アジアの夏期大会は7月20日から25日まで小田原のMRAアジアセンターで開かれたが、この大会を通して秋にむかっのシングアウトの計画も練られた。大会後、アジアから参加した青年は4日間東京に滞在したあと、約1週間にわたる関西旅行に出かけた。一方、移動学校は8月15日からのNHK学園でのスクーリングをめざして7月28日から東京のMRAハウスで夏期特別講習を開始した。

大会の詳細内容は、9月号にてお知らせします。

あなたでも参加できる!!

Sing-Out Asia

夏期大会

7月20日(日)→25日(金)

小田原アジアセンター

神奈川県小田原市十字4-1007
0465-22-6131



シングアウト夏期大会の招待状

シングアウト・アジア

韓国旅行めもりある記

写真と文 奥山正子



〈上〉仁川の高校でのショー

〈右〉釜山商業高校における、韓国に来て初めての屋外ショー。まわりには立派なビルが立ち並んでいる。

〈右下〉ソウル市民会館（3000人収容）で2回にわたり公演。

〈下〉韓国最初の日。釜山駅でシングアウト・釜山のキャストたちが歌いながら見送ってくれた。



メモ

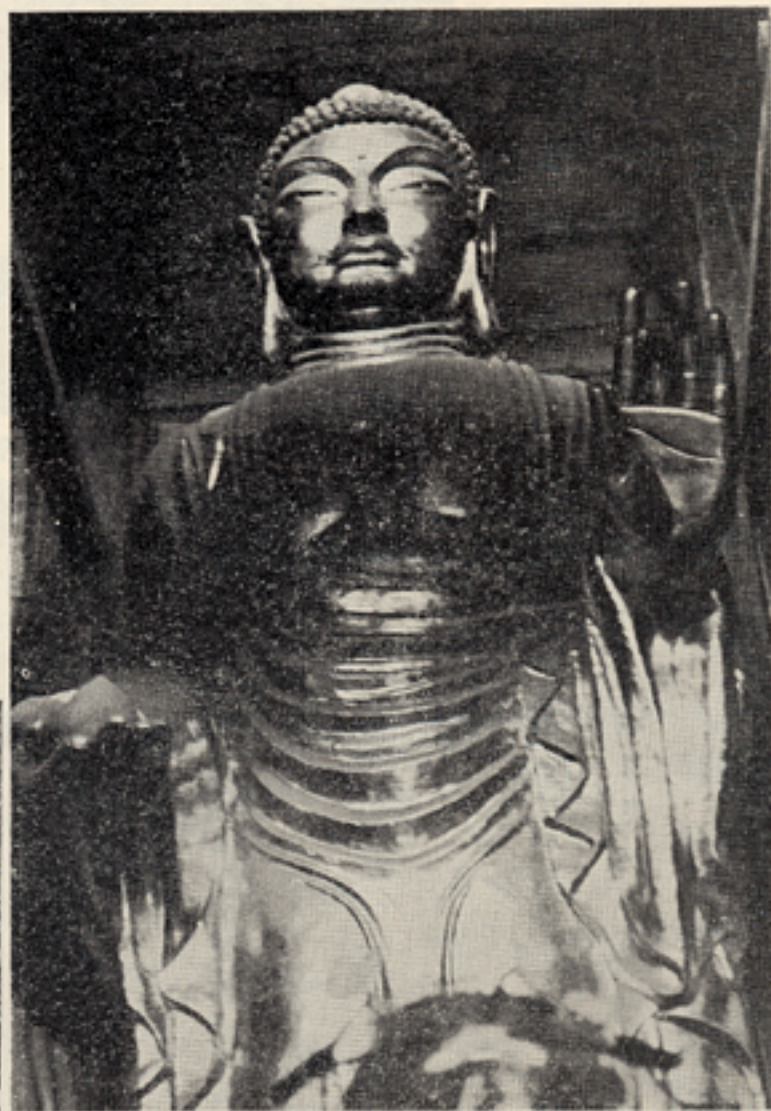
□田畑はほとんど日本の農村と変わりがなく、植えてあるものまで同じで外国に来たという感じがしなかった。田植えはちょっと変っていて、かにのように横バイに植えていく。□おとなは日本語を日本人以上にいねいなむずかしい言いまわしで使う。それだけ俗化されていない昔の日本語が残っている。私たちが「しゃべる」という言葉を使ったら、「それどういう意味？」と聞き返された。□韓国の青年は、目上（父、母など）に対しては絶対的に従う。そういう人の前では決してタバコなど吸わない。日本人も見習うべきではないかしら。□若い女性は「はい」という言葉を「ネエネエ」と言うが、それがまたなんともいえない優しさを含んでいて良い。□学校など、いたる所に国旗がある。



(上) 全州の教育庁にて

(右) 国宝金山寺の仏像全身金箔で覆われている

(下) ちょっと町を離れるとわらぶきの家が目立つ



日立造船大 阪 港 工 場

を訪問した

MRA 移動学校

7月号ですすでにお伝えしたように移動学校は神戸公演旅行のあと大阪に寄って日立造船築港工場を訪問、ショーを上演したり、懇談したりしたが、そのときの写真も送られてきたので、そのときの模様をあらためてここに詳しく報告することにしよう。

「私たち一同大変な感激を受け、おわかれすることにいつまでも心残りがしてなりませんでした。……どうにか計画通りに消化できてみんなではっとした状態です。さっそく職場ミーティングを開き、反省会をもちました。またの機会にはぜひもっとすばらしいものにしようとする建設的な話が続出し、私たちの明るい職場づくり運動もさらに充実したものに発展することでしょう。……今度のショーを成功させた喜びもまた格別で、苦勞の甲斐があったと職場で顔を合わせるたびにその話が出ます。若い人たちの間でシングアウトチームの結成も考えているようです。



正門前での歓迎あいさつのあと、生徒は控室まで歩いたが、両側には訓練生や従業員の人たちが立ちならび盛んな拍手を送った。こんなことには馴れない生徒たちはすっかりテレテ、どんな顔をして歩いてよいかすっかりとまどった感じだった。



午前11時、神戸からバスで到着した移動学校の生徒は工場をあけての盛大な歓迎を受け度肝をぬかれた。まず生徒会長の山下くんが花束が贈呈され、そのあと生尾工場長が歓迎のあいさつをされた。

築港工場は今すばらしい色と香りの花が咲き乱れているようです。……」

これは移動学校が日立造船築港工場を訪問して数日後、築港工場の「明るい職場づくり運動」事務局の中尾明さんから送られてきた手紙の内容の一部である。

また、7月上旬には増田総務部長と松本さんが東京のMRAハウスと小田原の移動学校本部を訪問され、今回の移動学校の工場訪問を通して生まれた新しい芽をMRAハウスと協力してのばしていきたいという意向を表明されると共に、この夏の小田原でのシングアウト大会に若い従業員の人を幾人か参加させたいと述べられた。

この日立造船築港工場は大阪港に面した大正区船町にあり、2000人の従業員が仕事をしているということで、主に船の修理、検査をしている。

この工場には以前から「明るい職場づくり運動」があり、職場の雰囲気をもくするのためにこれまでも色々な努力をしてきた。今回はその運動の一環として移動学校のシングアウトショーの公演となったわけである。

ショー、工場見学、懇談会、会食、映画鑑賞、交歓会と盛りだくさんのスケジュールが組まれ、短い訪問も最大限に有意義に活用された。

ショー、工場見学、懇談会、会食、映画鑑賞、交歓会と盛りだくさんのスケジュールが組まれ、短い訪問も最大限に有意義に活用された。

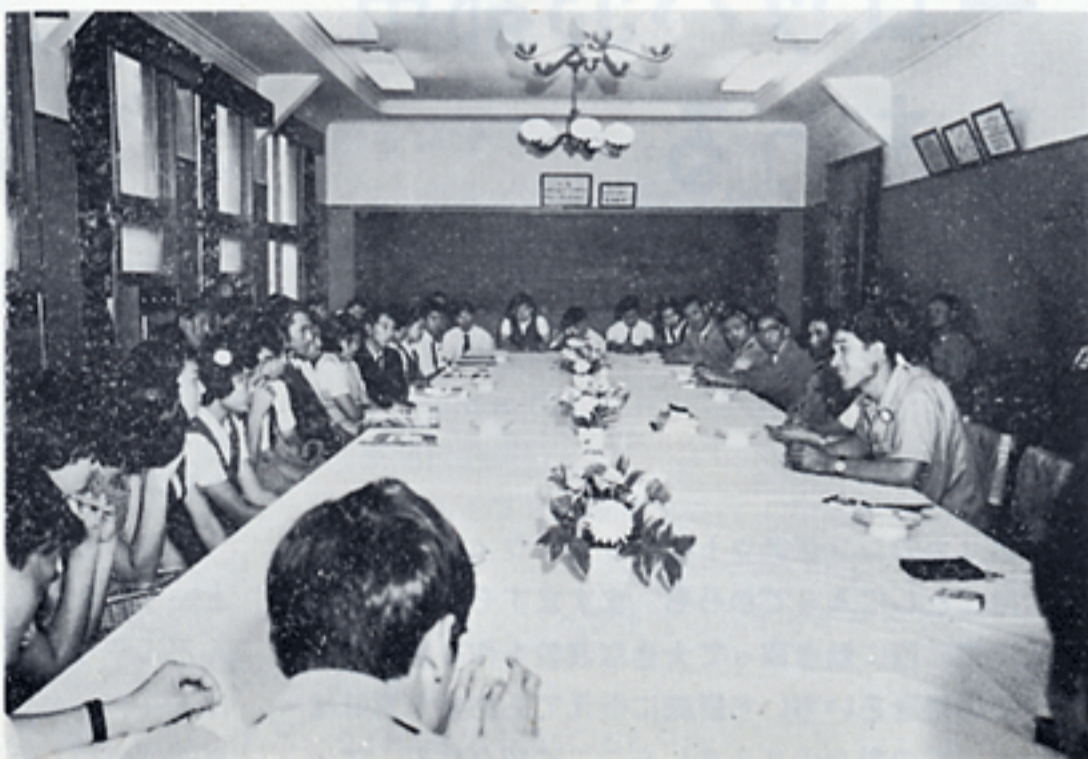
いう感じであった。夜は男子は全員、工場の大正寮に泊まり、その寮生と夜遅くまで話し合ったり、うたったりしたが、そこで示されたことは、歌というものはすぐにお互いの心を開かせ、きわめて自然に人間をうちとけさせる力を持っているということであった。そして、元気のいい歌声が夜遅くまで寮の食堂に響いていた。



昼休みには第一回目のショーが工場内の室内体育館で行なわれた。この体育館は新装なったばかりで、このショーがそのこけらおとしということであった。前の方には訓練生の人たちがすわり、うしろの方には従業員の人たちがつめかけた。このショーは30分であったが、夕方には1時間30分にわたって全ショーが上演された。

昼食後、生徒たちは2班に分れて工場を見学した。この工場は船の修理が主ということで、数日前高松沖で衝突事故を起したというアメリカの貨物船もドックに入っていた。生徒たちも皆ヘルメットをかぶって熱心に説明をきいた。

午後、2班に分れて懇談会が行なわれた。一つのグループは職場リーダーの人たちと懇談、もう一つのグループは若年層のリーダーの人たちと懇談した「これからの青年のあり方」「親と子の問題」「これからどうやって社会を明るくしていくか」などということが幅広く話し合われた。また移動学校やシングアウト運動についての色々な質問もなされた。



加古川学園生徒 からの感想文

——シングアウト・アジアを見て

6月20日 シングアウト神戸の招きで神戸を訪れていたMRA国際移動学校の生徒は「シングアウト・アジア」の音楽ショーをもって兵庫県加古川市に行き、加古川学園と播磨少年院の院生200名と職員の人達に上演、そのあと30分間食堂に院生とテーブルをばさんで話し合いをしました。

その後、院生たちのつづったショーに対する感想文が朝尾園長先生より送られてきましたが、そのうちの一部を紹介しましょう。

音楽の良さがわかった

きょうの音楽はいきいきしておりました。それにくらべると、僕らはなんだか気が抜けた歌の歌い方でした。

あの若さで世界を渡り、世界の人にあのすばらしい声で披露していると思うと、僕らはなんだか若さを忘れていたような気がします。あの人達はいつもここにこしていて、いつも胸をはって人生の道を歩きつづけているのです。それにくらべると、僕らは胸をはることもできず、いつも人生の裏街道を歩きつづけているのです。

僕らもはやくあの青年たちのように明るい顔やいろいろなものを学んで、社会の人から信頼されるようになりたいと思います。

音楽はすばらしいものだ、きょうはつくづく感じさせられました。僕は歌はめったに歌ったことがなか

ったが、きょうは久しぶりに音楽の良さがわかりました。

僕もあの青年たちに負けないように、大きな人間になるよう努力したい。絶対にちっぽけな人間にならないように努力します。(K)

進むべき道を教えてくれた

きょうは僕たちのために良い音楽をきかせてくれました。本当に嬉しく思います。若人らしく、いきいきとした感じのよい音楽だったと思います。僕もこういった楽団の皆さまのように明るく楽しい生活を送っていこうと思っております。

僕が社会にいた時、こういった音楽をきいたことがありません。でも、僕がこういうところに入ったからこそ、こんな楽しい音楽をきけたことを感謝しています。

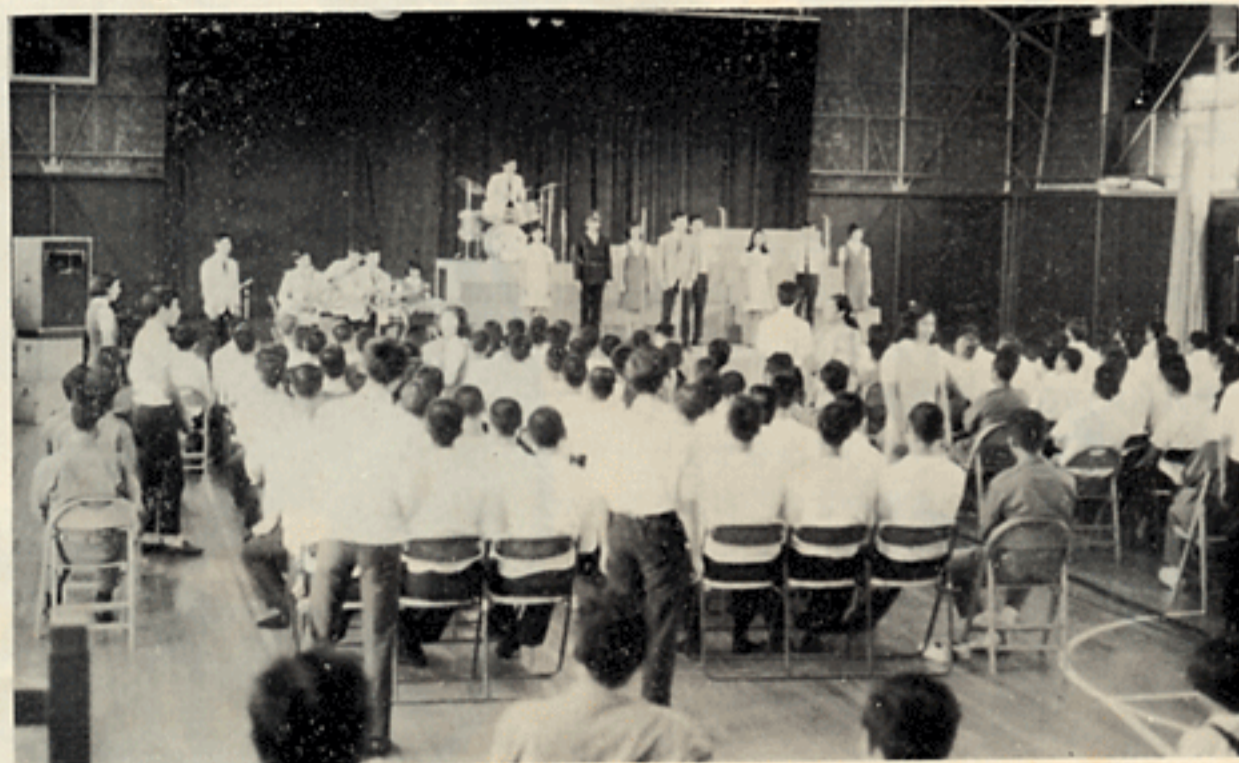
皆さんもこれからはいろんなところに行って歌うことでしょうか、がんばってもっともっとよい歌を作って下さい。

若い人達が、こういった少年院に来てくれるのは、よほど勇気や努力がなければできないことです。僕たちも負けないように努力して明るい社会に進んでいきたいと思えます。僕たちの進むべき道をきょう楽団の皆さんが教えてくれたように思います。(S)

僕も心の底から楽しく歌いたい

きょうは僕たちのために楽しい歌を歌っていただき本当にありがとうございました。僕は今まではテレビで歌っているような歌しか知りませんでした。きょうはじめてあのような歌をきいて僕もなんだか楽しい気持ちになりました。

ひとりひとりが心の底から本当に楽しく歌っているのを見て、僕もあの人たちのように心の底から楽しく歌えるような人間になりたいと思えました。(N)



兵庫県加古川市の少年更生施設「加古川学園」で上演するシングアウト・アジアのキャストたち